



日本美容皮膚科学会
Japanese Society of Aesthetic Dermatology

The 42nd Annual Meeting of the Japanese Society of
Aesthetic Dermatology

第42回 日本美容皮膚科学会総会・学術大会

Evening Seminar 1 イブニングセミナー 1

たるみの本質に迫る

— 皮膚の内側で何が起きているのか? —

8月31日(土)
17:30 ~ 18:30

名古屋国際会議場

第4会場

(1号館4階 会議室 141+142)

座長



銀座スキンクリニック院長

坪内 利江子 先生

演者 1



人工知能で解明する皮膚老化の新たな要因

株式会社 資生堂 みらい開発研究所 フェロー

江連 智暢

演者 2



皮膚全層治療と一体化した「たるみ」治療戦略

KO CLINIC&Lab 院長

黄 聖琥 先生

たるみの本質に迫る

— 皮膚の内側で何が起きているのか？ —

演題 1 『人工知能で解明する皮膚老化の新たな要因』江連 智暢

加齢と共に皮膚の状態は悪化し、その物理的な性質が低下することで、たるみに繋がる。しかし、皮膚の加齢変化の実態や要因は十分に解明されていない。これは皮膚の内部構造が複雑なため、従来的な方法では解析が困難なことに起因する。私達は人工知能（AI）を活用し、皮膚の内部構造を自動的に解析することで、立体的な皮膚をデジタル的にコンピューター上に作り出す「デジタル 3D スキン」技術を開発した。コンピューター上の皮膚のため、その内部を自在に探索することや、任意の場所で切断すること、さらには特定の構造を取り出す等の操作も可能である。このデジタル 3D スキンにより、皮膚の加齢変化の実態が明らかになってきた。そこでは、これまで着目されてこなかった汗腺や皮下脂肪などの意外な存在が、皮膚老化に深く関与していた。AI を活用したデジタル技術で解き明かす、皮膚の加齢変化の実態と要因を、豊富な映像と共に紹介する。

演題 2 『皮膚全層治療と一体化した「たるみ」治療戦略』黄 聖琥 先生

当施設では、カスタマイズ治療と称し、画像診断に基づき、レーザーやマイクロニードル RF などの EBD (Energy based Devices) を主体とした皮膚全層治療を行っている。表皮ではシミや肝斑、真皮ではシワや毛穴、赤みなどが問題となるが、表皮真皮の病態はお互い密接に関連があるため、全層治療として一体のアプローチが望ましい。40代～60代の年齢層では、表皮真皮の悩みに加えて加齢によるたるみ治療のニーズも同時にあることから、EBD では HIFU や高周波治療をよく用いている。容量結合型の 6.78MHz の高周波については、ジュール熱を真皮と脂肪組織内の線維中隔で発生させ、脂肪層の深部方向の収縮と真皮膠原線維の再構築によるタイトニング効果が期待でき、頬下方フェイスラインのたるみ、ほうれい線やマリオネットライン、目の下のたるみに適応させている。EBD は、表皮真皮とたるみの双方にも改善効果があるため、皮膚の全層治療と一体で行うことで、より満足度の高いたるみの治療が期待できる。実際の臨床写真を供覧しながら、皮膚全層治療から皮下にアプローチするたるみ治療戦略について述べていく。